

「阿波公方」を ご存知でしょうか

文化振興課 森脇 佳代子

阿南市には、約200年ほど前まで「公方さま」が住んでいました。ここでは「公方」は「將軍」を意味し、一般的には阿波（徳島）の公方（將軍）、「阿波公方」と呼ばれています。

阿南市那賀川町には、阿波公方・民俗資料館があります。阿波公方に関する資料を中心に、阿南の歴史や民俗を伝える品々が展示されています。

そもそも「阿波公方」とは、どのような人物なのでしょうか。

阿波公方が阿南の地に住んでいたのは、室町時代後期から江戸時代。將軍といっても江戸幕府の將軍ではありません。室町幕府の將軍、足利家の一族です。

昭和5年発行の「今津村史略」に

は以下のように書かれています。

「阿波の大賓として古津に屋形を構へて平島公方又は平島御所と尊敬せられて居つた足利將軍義種の嫡流たる名門で先祖義冬（義維）以来平島十二ヶ村並に山部四村を餉糧の地として居つたが蜂須賀家政入部して藩政策に腐心し公方の如き名族の領土内に差挟るは領主権を確立せしめる所以でないと考えた結果…（以下略）」

ここに書かれている「平島公方」が「阿波公方」にあたります。

初代阿波公方足利義維（義冬）は、室町幕府11代將軍足利義隆の実子、かつ同10代將軍足利義隆の養子という人物。歴史の流れが何か一つ違っていたら、將軍になっていたであろう人物です。しかし、時代は室町時代後期。応仁の乱や明応の政変、権力闘争に明けられる幕府の有力者たち。世の中は乱れに乱れ、將軍の後継候補といえども、盤石な権力基盤を持っているわけでも、命が保証されているわけでもありません。

んでした。

実際、義維はある期間、堺（大阪府堺市）において「公方」と呼ばれながら、將軍の仕事（訴訟の対応など）を行っていました。しかし、正式な將軍職に任命されることがないまま、内紛によって堺を去ることになります。その2年後、阿南市那賀川町の西光寺に移り住み、さらにその後、平島（阿波公方・民俗資料館の場所）に館をかまえます。これが

「阿波公方」（平島公方）のはじまりです。以後約270年間、9代阿波公方まで、当地に「阿波公方」は住んでいました。実際に、義維の息子であり、平島生まれの足利義榮は室町幕府14代將軍に正式に就任しており、「公方」の呼称も名ばかりではありません。以降、將軍家の血筋でありながら、徳島藩王蜂須賀家に冷遇されるなど度重なる苦難にも負けず、しなやかに、賢く、誇り高く、血をつなぎ続けた阿波公方の歴史は、興味深いものがあります。そしてその血は現代にもつながっています。

5月には、阿波公方の歴史をたど

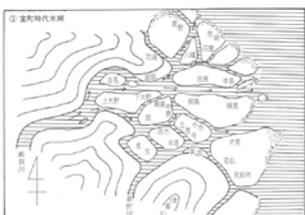
るウォーキングも企画されています。阿南市の歴史に大きな足跡を残した阿波公方。現在も社寺等に彼らの思いと生きた証が残されています。荒波をたくましく生き抜いた公方たちの歴史をたどりながら、室町〜戦国〜江戸時代の阿南市に思いをはせるのも味わい深いものです。



足利義冬（義維）の像
（阿波公方・民俗資料館蔵）



阿波公方・民俗資料館
（那賀川町）



室町時代末期の
那賀川河口地形の変遷（推定図）
（「阿南市史 第一巻」より引用）